



第二冊
局外中立規則案



114
STZ A 718
21

今般第 号ヲ以テ布告相成候詔書ノ御趣
意ニ原ッキ局外中立規則左ノ通相定

但廢止ノ節ハ其旨更ニ可告示候事

年月日

太政大臣 名

大正
陸軍省
贈

局外中立規則

第一條

凡ソ日本帝國ノ内外ニ在ル日本臣民ハ交
戰國ノ陸軍或ハ海軍ニ於テ一切ノ職任或
ハ囑托ヲ受ク或ハ之ヲ受ク可キ約諾ヲ為
スルヲ禁ス又其国内ニ在ルモノハ新
職任或ハ囑托ヲ受ク可キ目的ニテ一切ノ
船舶ニ乘込ムルヲ禁ス

第二條

凡ソ日本帝国内ニ在ル諸人ハ約束脅迫詐
欺其他一切ノ手段ニ由リ他人ヲ誘導シ若
クハ其世話ヲ為シ之ヲシテ交戰國ノ陸軍

或ハ海軍ノ為メニ一切ノ職任或ハ囑托ヲ
受ケシメ或ハ之ヲ受クルノ約諾ヲ為サシ
メ或ハ之ヲシテ爾後斯ル職任或ハ囑托ヲ
受ク可キ目的ニテ一切ノ船舶ニ乘込マシ
ムルヲ禁ス但日本帝国内へ来着ノ節既
ニ右交戦国ノ帶命船タリシ船舶上ニ於テ
日本国内ニ在留スル所ノ右交戦国ノ臣民
力自国ノ軍役ノ為メニ一切ノ職任或ハ囑
托ヲ受ケ或ハ同国及テ誘導シ若クハ其世
話ヲ為シテ斯ル職任或ハ囑托ヲ受ケシム
ルカ如キハ本條ニ提クル禁令ノ限ニ在テ
ス

第三條

凡ソ船舶(外国ノ帶命船ニ非サルモノ)ノ所有
主或ハ船長ハ日本帝国内ニ於テ此規則ノ
第一條或ハ第二條ノ禁令ニ背キテ交戦国
ノ軍需ニ關係スル所ノ者ヲ実情ヲ知りテ
カラ其船舶ニ載セ或ハ載スルヲ約シ或
ハ其船舶中ニ止ラシムルヲ禁ス

第四條

凡ソ日本帝国内ニ在ル所ノ諸人ハ何等ノ
船舶ニ拘ラス其直ニ交戦国ノ軍備ニ用
ヒラレ可キ目的ニテ或ハ其軍備ニ用ヒラ
ル可キヲ知リテ或ハ其製造若クハ機装
ニ或ハ之カ為メニ軍器軍用物品若クハ軍
需ヲ備辦シ或ハ其船舶ヲ突出若クハ差遣

スルヲ禁ス但其將ニ之ヲ製造、機裝、備辦、
榮出或ハ差遣セントスルノ際既ニ其交戰
國ノ帶命船タルモノハ此外ナリ

第五條

日本帝国内ニ在ル諸人ハ凡ソ交戰國ノ船
船ノ日本国内ニ在ルニ際ニテ該交戰國ノ
帶命船タルモノニ砲礮其外ノ軍需ヲ加載
シ若クハ之ヲ交換シ以テ其兵力ヲ增添シ
或ハ之ヲ增添スルニ關係スルヲ禁ス

第六條

凡ソ日本帝国内ノ諸人ハ交戰國ノ領地ニ
向テ操出ス可キ海軍或ハ陸軍ノ行征隊ヲ
整備或ハ調度スルヲ禁ス

第七條

凡ソ右ノ條々ヲ犯ス者アレハ相當ノ裁判
所ニ於テ之ヲ審問シ其有罪ニ決スル上ハ
該裁判所ノ裁量ニ從ヒ二年以下ノ禁獄及
以下ノ罪金ヲ申付或ハ單ニ右ノ禁
獄若クハ罰金ヲ申付可シ加之此規則ノ第
三條ニ載スル禁令ヲ犯ス者アレハ之ヲ審
問シ了ル迄ハ其船舶ヲ指留シ而シテ若シ
其有罪ニ決スル時ハ其船長或ハ船主ハ該
犯罪ニ對スル罰金及ヒ裁判入費ヲ拂ヒ又ハ其
惠刑ヲ受ル迄若クハ之ヲ拂ヒ又ハ受ク可キ保
証ヲ立テ、該裁判所ノ満足ヲ得ル迄ハ更
ニ其船舶ヲ指留ス可シ

且又此規則ノ第四條或ハ第六條ノ禁令ヲ
犯スモノアルハ九テ其犯罪ニ關係スル所
ノ船舶及ヒ其器具並ニ兵仗軍器軍用品或
ハ軍需ヲ併セテ一七日本政府ニ没入不可
三
且此規則ノ第五條ノ禁令ヲ犯ス者アルハ
九ソ其犯罪ニ關係スル所ノ砲礮其他ノ軍
需ノ日本帝国内ニ在ルモノハ外国ノ帶命
船上ニ在ルモノヲ除クノ外一切之ヲ日本
政府ニ没入スヘシ

第八條

九ソ日本政府ノ行政官吏ハ其海軍陸軍、税
關或ハ警察署若クハ地方政府等ニ屬スル
ニ論ナク其上官ヨリ受クル所ノ合法ノ諭
令ニ従ヒ此規則ノ第一條ノ禁令ヲ犯セル
諸人ヲ捕拿拘留スルノ權アル可シ且此規
則ノ第三條ノ禁令ニ違反セル諸船舶及ヒ
此規則ノ諸禁令ニ背キテ其船舶上ニ在ル
所ノ諸人ヲ保セテ之ヲ拘留スルノ權アル可
シ且此規則ノ第四條或ハ第六條ノ禁例違
犯ニ關係スル所ノ一切ノ船舶及ヒ(第六條
ノ禁令ニ觸ルルモノ)其船舶上ニ在ル所ノ
諸人ヲ保セテ之ヲ捕拿拘留スルノ權アル

第九條

現ニ日本政府ノ行政ヲ司レル各省ノ卿或
ハ各局ノ長官及ヒ諸使府縣或ハ諸港等ノ
長官知事、令或ハ其他ノ行政ヲ司ル長官ハ

可^レ且其犯罪ヲ成遂ケタルト半ハ遂ケタルト、犯罪中タルトニ拘ハラズ右等一切ノ捕拿拘留ヲ行フヲ得可^レ且前頭行政官吏ハ其上官ノ諭令ニ由リ法ニ合^レテ權力ヲ授ケラルルハ右捕拿拘留ノ外ニ在^レ上ノ條々ニ載セタル一切ノ事ヲ行ヒ得可^レ且右行政官吏ハ右等ノ捕拿拘留及ヒ其他ノ事ヲ行ハニカ為メニ事情相應ノ勢力ヲ用フルヲ得可^レ

第九條

現ニ日本政府ノ行政ヲ司レル各省ノ卿或ハ各局ノ長官及ヒ諸使府縣或ハ諸港等ノ長官知事、令或ハ其他ノ行政ヲ司ル長官ハ

若シ此規則ノ禁令ニ對シテ罪ヲ犯シタル者或ハ現實ニ之ヲ犯ス者或ハ將ニ之ヲ犯サントスル者アリト信ス可キ相当ノ理由アルヲ義知スル者ハ直ニ其犯罪ヲ探查シ若クハ防止スル為メニ須要或ハ相当ナリト思料スル所ノ令狀ヲ發シ以テ此規則ニ適應シテ一切ノ船舶、造船場、鑄造場、製造場、工場及ヒ其他ノ場所ヲ搜查スルヲ得可シ

第十條

若シ此規則ノ箇條ニ從テ一切ノ船舶或ハ器具或ハ貨物或ハ人ヲ捕拏若クハ拘留スルモノアレハ其捕拏拘留ヲ行ヒタル行政

官吏ハ直ニ其旨ヲ其筋ノ有司ニ届出ワ可シ而シテ其官吏及ヒ有司ハ直ニ其事件ヲ相当ノ裁判所ニ引渡ス可キ手續ヲ爲シ決シテ邊延スルヲ莫ル可シ又其裁判所ニ於テハ直ニ其事件ノ審判ニ取掛リ或ハ其場合ノ公義ニ相應シテ一時ノ処分若クハ他ノ処分ニ取掛ル可シ

第十一條

總テ行政官吏或ハ其他ノ官吏若クハ正当ニ誤官吏ニ代リ或ハ之ヲ助ケ或ハ其外正当ニ此規則ノ施行ニ關係シタル人々カ真意ニ其職務ヲ執行スル為メ行フ所ノ一切ノ所為ニ對シ之ヲ抗拒スルノ所業等アル可

ラス且右ノ人々ハ相当ノ理由アリテ前
ノ職務執行ノ為ニ須要或ハ当然タリト
真意ニ自信シテ行フ所ノ為ニ就キ刑法
上或ハ民法上ノ責問ヲ受ルヲ莫ル可シ

第十二條

若シ日本帝國ノ局外中立ヲ破リ其管轄内
ニ於テ戰時捕物トシテ拿獲シタル一切ノ
船舶物品或ハ商貨者クハ此規則ノ第四條
第五條或ハ第六條ノ禁令ニ觸ルハ犯罪ニ
關係スル所ノ一切ノ船舶ニテ拿獲シタル
一切ノ船舶物品或ハ商貨ノ日本疆内ニ在
ルモノアルハ若クハ其拿獲者或ハ其代理
或ハ其捕物タルヲ知リナカラシ之ヲ自己ノ

所有ト為シタル者其捕物ヲ日本疆内ニ齎
來セルハ右捕物ノ原所有者或ハ其代理
者クハ日本政府或ハ該所有者ノ管轄政府
ニテ許ス所ノ諸人ハ該事件ニ就キ法權執
行ノ權ヲ有スル日本国内ノ相当ノ裁判所
ニ告ケ其捕物ノ差押留置ヲ出願スルヲ當
然タル可シ而シテ該法權執行ノ權ヲ有ス
ル日本国内ノ裁判所ニ於テハ其事實ニ付
應當ノ證據ヲ得ル上其捕物ヲ原所有者
復与ス可キ旨ヲ命ス可シ

第十三條

凡ソ此規則ニ揭示スル所ハ交戰国或ハ其
他ノ外国帶命船ヲ没入スルヲ得セシム

ルノ意ナク又一切ノ裁判所ラニテ右等ノ
帯命船ニ関スル事件ヲ処分スルノ法權ヲ
(他ノ場合ニ於テ執行ニ得キ法權ノ外ハ)
得キニムルノ意ナキモノト知ル可シ
以上

